

# 平成24年度「逗子市学習状況調査」の分析結果（中学校）

## 〇はじめに

平成24年4月16日に「逗子市学習状況調査」が行われました。この調査は、逗子市の児童生徒の学習状況を把握・分析し、各学校の指導方法の工夫・改善および児童生徒の学習に役立て、市として必要な施策の策定に資するために行われたものです。実施内容は、市内中学校2年生とし、国語、社会、数学、理科、英語の5教科で、神奈川県調査問題をもとに行われました。

この分析結果を踏まえ、各学校において今後の指導方法の工夫と改善を図り、本市において教育施策の成果と課題を把握しその改善を図るよう努めたいと思います。

なお、ここでいう学力とはこの調査で測ることができた学力の一部であり、子どもたちの持つ学力全てを示すものではありません。

## 1 実施状況

- 調査実施日 平成24年4月16日
- 実施教科 教科に関する調査（国語、社会、数学、理科、英語）
- 実施学校・学年・調査数 逗子市立中学校2年生 376名

## 2 逗子市の調査結果の概要（中学校2年生）

国語	<p>国語は、「書く能力」（1設問）の平均正答率が71.3%、「読む能力」（9設問）が77.3%、「言語についての知識・理解・技能」（11設問）が67.3%とおおむね良好な結果でした。</p> <p>「読む能力」については、文章を読んで一つの段落を入れる箇所を問う設問で正答率が46.0%となっており、文章の内容をとらえ、段落相互の関係を理解する部分で課題が残りました。解答傾向を見ると「海外」という言葉と「外国」という言葉を結びつけているような表面的な読みの可能性があります。また、他にも正答率が50%台のものが2つあり、ともに読解に課題があることを示す結果になりました。また、「言語についての知識・理解・技能」については、「おんだん」「ごっか」「あ（びる）」の漢字の書き取りや文の主語を問う設問で、正答率が50%を割り、特に訓読みの漢字は書けない傾向を示しました。さらに、文の構成である主語と目的語の区別にも課題が残りました。</p>
社会	<p>社会は、「社会的な思考・判断・表現」（1設問）の平均正答率が75.7%、「観察・資料活用の技能」（7設問）が45.2%、「社会的事象についての知識・理解」（19設問）が53.6%と「観察・資料活用の技能」等に課題が残る結果となりました。</p> <p>「観察・資料活用の技能」では、複数の資料を組み合わせる問題や、歴史の流れを示す年表と法令の内容を示す資料という2つの資料から法令の名（御成敗式目）を問う設問では、正答率が10%程度と課題を残しました。資料の組み合わせに課題を残しました。また、「社会的事象についての知識・理解」においても、「赤道」の名称は知っていてもそれを地図上で示せなかったり、撰閣政治についても名称は示せてもどう理由で成立しているのか示せなかったりと、名称とその内容の結びつきに課題が残りました。さらに、文化と寺院等の2つの事項を時間軸で合わせてみることに課題が残りました。</p>

数学	<p>数学は、「数学的な見方や考え方」（2設問）の平均正答率が80.1%、「数学的な技能」（17設問）が66.1%、「数量、図形についての知識・理解」が76.2%とおおむね良好な結果でした。</p> <p>「数学的な技能」では、分数の計算や指数の計算のような基礎事項にやや課題が残るほか、円錐の体積を問う設問の正答率が35.8%、度数分布表を読み取り最頻値の階級の相対度数を求める設問では、正答率が26.0%となる等、特定の設問で課題が見られました。</p>
理科	<p>理科は、「科学的な思考・表現」（10設問）の平均正答率が46.1%、「観察・実験の技能」（2設問）が40.7%、「自然現象についての知識・理解」（20設問）が63.3%と「観察・実験の技能」等に課題が残る結果となりました。</p> <p>「観察・実験の技能」では、顕微鏡の操作の手順を正しい順に並びかえる設問が正答率17.9%と何故その操作をその順序で行うのか、理由と結びついていないことが考えられる結果となりました。「科学的な思考・表現」では、単位面積あたりに働く圧力の大きさを求める設問で正答率10.5%、実験によって何がわかるのかを見ている問題では40.8%、知識を使ったグラフの読みをみる問題では31.8%と、様々な側面で課題が残る結果となりました。</p>
外国語 (英語)	<p>外国語（英語）は、「表現の能力」（11設問）の平均正答率が61.5%、「理解の能力」（7設問）が74.6%、「言語や文化についての知識・理解」（14設問）が69.8%とおおむね良好な結果でした。</p> <p>「表現の能力」では、(a) picture of my family の前置詞 of の使い方を問う設問が正答率33%、会話文が成立するように3語以上の英文を書く設問では、無解答率が30%を超える等、英文を書く力で課題が残りました。my family のように知っている特定の組合せを先に作ってしまい、そのため後につづかないという英文の書き方であることが想定できる内容でした。また「言語や文化についての知識・理解」では、見慣れた表現から判断したり、絵を見て状況判断をしたりと、じっくり考えていないと思われる課題が残りました。</p>

### 3 調査結果を踏まえた指導の改善

#### (1) 国語

書く能力	与えられた資料や説明文から、必要な情報を正確に取り出すためには、資料や説明文の全体の構成をとらえることを意識し、要点をおさえながら読ませることが必要です。
読む能力	<p>文学的文章では、登場人物の心情や描写に着目しながら文章を読ませるとともに、多くの本や文章に触れる機会を増やす指導が大切です。</p> <p>説明的文章では、段落や文のつながりを正確にとらえ、文章を全体的に読み取ることが必要です。そのためには接続語や類似表現、繰り返し使われるキーワードなどに注意して読ませる必要があります。文章の中で、問題提起、本論、結論に至る根拠がどこか、に注意して読ませる指導が必要です。</p>
言語についての知識・理解・技能	漢字の正確な形とその意味を理解させることが大切です。書けない漢字については、その都度辞書で確認させる指導を通して、漢字一文字一文字を丁寧に理解させていくことが重要です。

## (2) 社会

社会的な 思考・判断・ 表現	表現については、日頃からの習慣が大切です。前述したような「なぜ」「どうして」を言葉で表現する機会を増やすことは、表現力を高めることにつながります。また、複数の視点から「なぜ」「どうして」といった問いを立てる機会や、情報の抽出の仕方は妥当かどうか、抽出した情報によってきちんと社会的事象を説明できているかどうか、などの諸点を生徒自らが検証する機会を設けることによって、さらに表現力を高めることが期待されます。
資料活用 の技能	資料を読み取る際には、多面的・多角的な考察が求められます。着眼点を複数置くなど、いくつかの条件を並行して考えられることが、よりの確かな思考や判断につながっていきます。実際に資料を分析する機会をつくったり、生徒同士で資料についてのディスカッションをする機会を設けたりすることで、幅広い思考が養われることが期待できます。
社会的事象 についての 知識・理解	社会的事象を学習する際には、単に個々のものを暗記するわけではなく、その事象が起こった社会的(文化的)背景や原因についても触れることで、知識と知識を結びつけ、そこにどんな関係性があるのかを理解することが大切です。

## (3) 数学

数学的な 見方や 考え方	数学的な見方・考え方を育てるためには、1つの解決方法だけで満足するのではなく、他の解法がないかを考えさせたり、自他の考えの相違を見付けさせたりすることも大切です。その中で、他の人が立てた式を考えさせて式の成り立ちや問題場面との整合性などを理解させながら、数学的な見方や考え方を養っていきます。
数学的な 技能	問題を解く際に複数の知識を利用しなければならない時は、問題の情報を整理し、与えられた条件を1つずつ読み解いて必要な知識をそれにあてはめていくという分解的なアプローチをする等、解き方のプロセスを指導することが大切です。
数量や図形 など についての 知識・理解	比例についての理解を深めることも大切です。数字や記号の式から比例を理解することも大切ですが、生活の場面から比例関係にあるものを発見できることも大切です。式の上だけではなく、どのような形で生活場面に表れているのか、その対応を見ることも大切です。

## (4) 理科

科学的な 思考・表現	身近に起きている自然現象に対して疑問を持つことは、非常に重要です。授業で理解したことを生活の中で確認することが大切です。そのために、現象を紐解いたり、実験の前にその現象や反応はどういった場所でどんな時に見られるかなど、意識しながら学習することが望まれます。
観察・実験の 技能	顕微鏡の操作手順の正しい理解のために、時には誤った操作だとどんな不都合があるのかを試して見せるなど、その行為が誤りであることを認識させることも大切です。 なぜこの実験を行うのか、どんなデータが必要だから実験を行うのか、を考えながら実験に臨ませることが大切です。そして、その中でなぜ実験器具を正しく使うことが大事なのか、きちんと理解させることも必要です。

自然現象についての知識・理解	身の回りの自然現象に興味を持たせることで、理科の用語やその意味、知識を覚えたという積極的な態度を持たせていくことも重要です。校庭に落ちている石から地層の話をする事、カメラや映画のフィルムからレンズの話をする事など、身近なものに関連付けた学習をすることが望まれます。
----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(5) 外国語 (英語)

表現の能力	英文を書けない(話せない)大きな理由として、語彙や文法を理解していない(定着していない)ことだけでなく、言葉としての感覚的な要素の不足が挙げられます。会話の中で語彙や表現を確認したり、思い出したり、身につけられたりできるよう、テーマを設定などして、シチュエーションに工夫を加えることも大切です。
理解の能力	授業で文を読む際には、内容理解のみならず、語彙や文法の確認に加えて、類義語や類似表現を確認・紹介するなどして、幅広い知識を養えるよう工夫するなど、日常の授業の中で継続して指導していくことが大切です。
言語や文化についての知識・理解	単元の枠を超えて、文法事項・語彙の確認をすることで、単元にとらわれない表現力や理解力を身につけさせることや、家庭学習だけでなく授業でも復習の機会を提供するなどして、知識を定着させることが大切です。